

記録 齊藤

## 参加者

保健福祉課 課長	與田様
保健福祉課 介護福祉係係長	笠原様
企画推進室長	星村様
地域包括支援センター室長	釣谷様
緑町町内会長	首藤様
緑町町内会副会長	松木様
緑町民生委員	松木 (久) 様
みどり会 代表	田本様
ご家族代表	阿部様、岡様

## スタッフ

中村 若狭 松村 齊藤 久貴谷

中 村：皆様お暑い中お集まり頂きましてまことにありがとうございます。今回は前回の運営推進会議の続きでボランティアバスについてお話をさせていただきます。通常だとスタッフが進めていきますが、今回は私が進めさせていただきますのでよろしくお願い致します。

前回も出ていた方々に来て頂いてるので、ボランティアバスという意味はお分かりだと思っておりますが、七飯町の方でコミュニティバスについて何年前にアンケートをとりましたが、そのままになっているとのことで、ボランティアバスを行う為に企画財政室長の星村さんに相談しました。今回星村さんを含め4名の役場の方々に来て頂きました。ボランティアバスについてアンケートをとらせて頂き、会長にお願いし緑町の400何世帯あるうちだいたい50名弱の方が答えて頂きました。町内のアンケートをまとめさせて頂いた資料を添付させて頂いておりますのでご覧下さい。その中で緑町は坂道も多いので「お買い物に使いたい」という意見が多く、お買い物の中ではラルズ、ホクレンという回答が50名のうち26名いました。「ボランティアバスはあったほうが良いか」の問いに42名。「利用したいと思うか」の問いに対して「日常的に使いたい」が8名。「時々使いたい」が26名。平日のボランティアバスの利用のお尋ねというところで、だいたい週1～2回使用したいという方が20名程出ている。その中で目的が先程も言ったお買い物が26名。その他、ななえ新病院さん、宮内内科さん七飯の公共施設

に使用したいという結果が出ました。平均的に60歳くらいの年齢からの回答が多かった。60歳代という方が21名。世代別に考えていくと夫婦のみで暮らしている方が19名いました。60代の方で無職39名。その他でボランティアバスという言葉が高齢者には難しいとか、60代70代の方々の感想が出てますのでちょっと見て頂きたい。ただひとつ株式会社でこのようなアンケートをとるのであれば自分たちでやってくださいと厳しい指摘がありました。なぜボランティアバスをやるという事が理解されていなかった。GHで運営推進会議を設け、私たちが町内会の中で行わせて頂いてもまだまだ一人の方にそのような意見を頂いたということは浸透していないとひとつ勉強させて頂きました。その方がどなたかは分からないができればその方にも運営推進会議に参加して頂ければと思っております。

続きましてボランティアバスを運行する為にはそうしたら良いか。町と会議をしましたら、星村室長のほうから陸運局へ行って聞いてみないことには法律的にひっかかった時に困るのいう事で星村室長と今月の8日に陸運局へ行き、星村室長より陸運局の方へお話して頂きました。ボランティアバスを実施する為に私がお話させて頂いたのは、週1~2回60歳以上の高齢者をボランティアでラルズ、魚長にお買い物に午後から行って頂くという形にしたい。「戸口から戸口なんですか」と聞かれ、行きは荷物を持っていないので緑町会館等に集まって頂き、乗せていく方法もあって、帰りは荷物があるので戸口から戸口と考えているという説明をさせて頂いた。そしたら当然やる意味があるのか、やるのだったら他に社協さんでもやっている、輸送サービスがあるという話も出ました。陸運局からもらってきた資料をつけさせて頂いているのでご覧下さい。やるのだったら3種類方法がある。ひとつは介護保険で輸送サービスする。青ナンバーを取って登録する方法。二つ目は役場の福祉課に申請する。そのかわり要介護者でなければならぬという法律があるので要支援者、要介護者、身障者のみとなり対象者が限られる。介護保険をある程度認定を受けている方が対象者でなければならぬとなると私たちが望んでいるボランティアの支援が出来ない。三つ目は青ナンバーとして介護保険法に定めがある。一個一個説明すると時間がかかりますのでその二つじゃ駄目という話になりまして、じゃあお金をもらわないでやっても良いか伺うと、それは構わないがただやる中で函バス等の交通の妨げをしてはならない。函バスさんの方にも三ヶ月くらい試行でやりたいですと話をします。やってみないことには必要性があるかどうか分からないので、函バスさんの方にも声をかけてみてはどうですかという話が出たのと、北斗はイヤーさんの商売にも影響するので北斗はイヤーさんにもこのような理由でやりたいと伝えてみてはどうかという二つの案が出ました。やらないのに話は出来ないのもまだ持っていません。ただ陸運局としてはボランティアバスでお買い物を支援する事に対しては法律上

は何も触れませんのでやることには問題ない、ただ以前函館市が高齢者の為にそういうサービスを展開しようという事で、試行でやったがそれが浸透していなかったのかは分からないが、ニーズと必要性は少なかった。私たちは小さな送迎のキャラバンなのでニーズがなければ来年に考える。ただやってみないとニーズがあるかないか分からないので3ヶ月くらいは週2回くらいやってみたいという気持ちもある。前回の運営推進会議でお話しましたが、3ヶ月緑町町内会でやらせて頂いてその結果どうだったか企画財政室に持っていきます。七飯町にはコミュニティ協議会があるのですが、室長のほうからお話して頂いたほうが分かりやすいと思うのでお願いします。

星村様；コミュニティバスという形で前に皆さんに2回アンケート取りました。七飯町地域公共交通活性化組、それと社会福祉協議会という二つの協議会があるという事をお知らせします。

中村；二つあるということでそこは町として考えてもらう。それはまた別として星村室長と行ってきてそういう内容であれば試行してやることに関しては陸運局としては全く問題ないというお返事を頂いて来て、ましてやアンケートまでうちは出させて頂いて、それを全く形にしないというのはよくないと思う。アンケートをとって利用人数が少ないから話だけで終わってしまったというと役場には申し訳ないか同じになってしまうのでここで、進めてきたのであればやはり1ヶ月でも2ヶ月でも1度ニーズがあろうがなかろうがやってみるべきではないかなと私としては考えている。確認ですが、函バスさんと北斗ハイヤーさんにその旨をお伝えした上で試行する分には問題ないと回答頂いたのは・・・

星村様：そうですね。競合するバスやタクシーこちらの方の聞き取りをして下さい。それから安全面を強調していた。

中村；その三つを言われてきた。それは同じ認識だと思います。もちろん安全面は十分気をつけていかなければならない。DSの送迎をしている職員を使っていこうと考えている。でも事故が起きないとは限らない。職員がぶつけようと思ってぶつけるのではなく、ぶつけられる場合もあるかもしれない。高齢者の方を毎日送迎させて頂いている部分と送迎をして遠出をしていくという事ではなくて、ラルズさんか魚長さんというエリアの部分なので幅を広げていく事は簡単なんですけど、まずその辺からスタートさせてもらいたい。やっていく中でエリアを広げていければとは思っている。でも最初からあまり遠くと先を見すぎずに当たり前出来るような所からやらせて頂きたいと考えています。それで皆さんのご意見を伺い

たい。緑町の高齢化率は高いですよ。町内別で高齢化率出していますか。

笠原様：全体で26.7%

中 村：七飯町全体で26.7% 要介護者でいくと千いくら。

笠原様：1200切れるくらい。

中 村：だからかなり高いです。

松木様：1丁目 35% 2丁目 32% 3丁目 35% 平均33.4% 6月1日  
現在。3人に1人が高齢者となる。町全体では25%。国全体でも24%とか25%となっている。

中 村：そういう部分で予防などに取り入れたり出来ていれば良いんですが・・・そこは徹底されてますか。

釣谷様：地域別という形では出来ていない。

中 村：そういう部分でできていると必要か必要じゃないかの判断も出来てくるとは思うのですが、そこもしっかりとニーズに答えていきたいと思っている。なぜそういう事をするかという理由はスプリンクラーがついたから安心というわけではなくて、緑町の平均介護度が4.2 そういう方が18人いらっしゃる。万が一震災、火災、起きないとは限らない、そういう部分で少しでも町内会さんのお手伝いが出来れば、起きたときに助け出してあげようとか、うちで見てあげようとか、先にあるかどうか分からないことでもそういう部分で保険をかけておきたいと言うのが本音。だからと言ってこのうちで見て下さいということではない。今被災地でGHや特養が流されてしまい、普通の民家の空き家を借りてそこに18名の方が暮らしているのが現状。やはり職員だけでは手が回らなくて、地域の方に協力してもらっているとの事だが、若者は仕事に出てしまうため、お年寄りがお年寄りのお手伝いをして下さっているのが現状。東北の仲間が地域のお年寄りに支えられている。こういう事があると尚更、事業所としては、今ここで暮らしている方たちを少しでも手を借りられるという保険。保険は使わないのが一番。でも、保険をかけておきたいというのが私の希望なので是非、地域の方々のお買い物のお手伝いをさせていただきたい。味噌を買うとか米を買うとか大きいものを買う時がありますよね。ちょっとしたお野菜であればご自分でお持ちになる事は可能でしょうけど、私でも米5kg 買っ

て、味噌買ったら大変ですから、私たちでも無理なのに高齢者はもっと大変だと思います。重いものだけでもちょっと行ってみようかしらという方がいればご支援させていただこうと考えていますので、その所はご理解していただきたい。今回の震災も踏まえて私たちはご利用者のためにも保険をかけておきたいという気持ちでやらせていただきたいと思っていますので、それについてご意見を聞かせていただければ。

松木様：大変ありがたいことです。必要な人がこれだけいるわけですから、やってみる価値はある。先ほど心配されていた北斗さんもある。函バスもある。そういう人たちの商売にも影響するのではないかという心配は持っていた。そこを配慮するという事であれば良いと思う。もう1つ。いっぱいお店があるのに、指定からもれた所に悪いような気がして、あれやこれやと気を使ってしまって。ただ大変良いことだと思う。

中 村：比較的大きな所というラルズか魚長かホクレン。小さな商店さんの邪魔をしてしまうという捉え方もあるかもしれないですけど、魚長、ラルズ、ホクレンというような所で考えている。小さな商店さんだったら、ちょっと散歩がてら寄って買い物をする。町内を選択した理由はやっぱり七飯町民であるし、七飯町の地域でお金を使って、もちろんもっと大きな所に行けば、もっと安く手に入るかもしれない。町内の中でお金が循環していくという事も一つの方法論かなと思う。なので、私たちは町内の大きなスーパーさんの支援をさせていただきたいと思っています。

松木様：大変良いと思います。例えば、今社協のバスを借りて緑町では月2回アップル温泉に行っている。登録は22~23名。13~14名くらいは参加している。その人たちにとってはありがたいと喜ばれている。ただ、年配者が多いので、3人4人行けないこともあります。病院に行くとか、こっちは曜日を変えられないので。必要な人がいるのであれば、人数が少なくても行く。温泉より確立は高いと思う。

中 村：大きな29人乗りのバスが法人にある。例えば温泉に行く時でも社協の車を借りなくても使っても良いと思う。そういう方たちと関わりをもって本人にお買い物ニーズが必要なのかどうか。ニーズ把握のために試行するというのも一つの方法論。温泉に乗せてってもらわなきゃ行けない人というのは、おそらく、お買い物も連れて行ってもらわないとならないのではないかなと思う。

松木様：ただ、お買い物となると目的外使用になる。

中 村：要は社協に温泉に行く目的として借りてるわけですよね。

松木様：そうです。

中 村：だからそれ以外は使えない。社協から車を借りると目的使用外の事はできない。そこも不便ですよね。

與田様：意味合いが違いますので。日常生活の使いたい所に使うため全く使い道が変わってくる。

中 村：バスを借りて公共の温泉に行く。それは基本的に予防とか介護の部分で考えていかなければならないですよね。

松木様：その申し込みはあまり細かい決まりは設けてないですからね。

中 村：それでは、このような形で出来ればと考えていますが、会長はどうですか。

首藤様：緑町は一人暮らしがどんどん増えてきている。買い物に行きたいと思っても坂道が多いし、厳しいと思います。そういうバスがあれば利用すると思う。まずは3ヶ月ぐらいやってみて、いろんな意見を出し合って、解決するもの解決していくようにしていけば良いと思います。

中 村：3ヶ月ぐらいやってみて、またアンケートをとって、やってみてどうなのかという所を判断していきたい。

首藤様：そういう形でやってもらえれば、少しでも町民のプラスになると思う。

松木様：今の時代はこれに限らず、何やっても、必ずどっかに影響します。反対も出ると思う。

田本様：おばあちゃん達が利用するわけですよね。お年寄りの方はすごく言葉がわかりづらい。ボランティアとかコミュニティというのが出てくると、もうそれだけで拒絶反応。この間のアンケートも400万世帯に総会の案内と一緒に出したんですよね。ですけど、これだけしか回答がこなかったという事は最初から無視されたか、見たけどよくわからないという人もいたと思う。もしやるんあれば、かみくだいて「お買い物」「病院」「バス出しますよ」というご案内が必要だと思います。

中 村：反省してます。よくよくわかるようにやってみたんですけど、どうもうまいかなかったのは、もっともっと私たちがご高齢者と話すときにも、ご家族さんに病状説明をするときなど、かみくだいて説明して、理解していただくようにしています。それをなかなか文章に落とすのは難しく、ボランティアバスというよりもお買い物バスを火と金に出すよなどの書き方がわかりやすかったのではないかと考えていました。

首藤様：アンケートを作って新しい班長さんに説明して、ところがあれもこれもという風にはならなかった。時期的にタイミングが悪かった。本当は5割くらい回収したかった。

中 村：でも1割程度でもこれだけのニーズがあった。逆にありすぎた方が期待が大きすぎて期待を裏切ってしまうかもしれない。町内会さんも役員の変わり目だったという事で申し訳なかった。ただ私どもにしてみるとこういう回答の方が試行でやってみようかという事になる。ボランティアバスではなく、ネーミングを考えて分かりやすくやっていければと思う。

岡 様：場所が1ヶ所だけでなく2ヶ所とか。坂を上ると下がるのとでも違うと聞いたことがあるので。

阿部様：前回は参加しましたが、買い物難民とか、今何年も前から日本国中高齢化が進んでますので、ニーズはきっとあると思います。お世話になっている母も買い物が大変だった。ハッピードワンでやろうとしている買い物支援という部分では異論ありませんし、保険だというお話も聞いているので。このような事を1事業所がやろうとしているのをあまり聞かないしすごく良いことだと思うのですが、それをするにあたって日常お世話してもらっている側からするとお年寄りの日常生活をサポートする施設だというのが基本。アンケートを短期間でどれくらいの人数が答えたのかと思っていた。ただ基本はこの施設がデイサービスなど、いろんな事業をやっている。そこをきちんとやった上で試行してほしいと家族としては思います。

中 村：北海道でGHは850事業所ある。GHは地域密着型。地域密着という位置づけが平成18年から始まった。GHというのは、地域の中に出て地域の方と触れ合い、うちの中で生活するということ、GHの中だけでケアをするということではない。ご家族様としてスタッフが介護を中心に行って欲しいという考え方は分かるが、スタッフも限界がある。今、うちはスタッフ7名いて、交代で勤務している。スタッフと利用者様が地域

に出て挨拶や会話など地域の方と関わることによって地域から支えられている。それがすごく大きい力になっている事をご家族様には理解して頂きたい。夏場の日光浴や散歩等だけではなく冬場でも銀会等地域の方々がボランティアで来て頂いているので、スタッフも楽しみにつながる。ご家族様はスタッフにお世話になっていると考えていると思うが地域全体がこの建物、七飯町のおじいちゃん、おばあちゃんだと見方をしているのがGH。850事業所全てが地域と関わりを大事にしている。逆にケアだけをしている方が心配です。年に1回行われる外部評価の項目には地域と何をしているか等の地域との関わりの項目がものすごく多い。その中でスタッフが何をしているか、支えられているかという項目はほんと少ないです。地域との関わりが少なければ少ないほど行政からもっと地域と関わって下さいと指摘ある。避難訓練、防災訓練等国は地域との関わりを求めている。

笠原様：地域の方と普段からどれだけ関わられるか、地域に関するチェック項目がかなりある。特養さんとか老健さんとか大きい施設よりはかなり地域との関わりを事業所として求められる。

中 村：今、介護されている方が施設でどのように過ごすか。GHというのは自然と地域と関わる。ベッドで過ごすのではなくて散歩に行ったりと地域と関わる。もし、行方不明になってしまった方を地域の人と関わることによってハッピーの利用者さんだと分かり連れてきて頂くケースも沢山実際にあります。地域だけに支えて下さいというのは無理な話だし、私たちに出来ることはさせて下さいという持ちつ、持たれつの関係。介護職も限界があり、正直介護だけではストレスがたまる。地域の人と関わることによってスタッフが安心するということご家族様には理解して頂きたい。たとえばスタッフが勤務中にボランティアバスをやるのは規則違反になる。日中利用者さん9人に対し、3人いなければならない。GHのスタッフがバスを運行する事は人が足りないので出来ません。ショートステイ、デイサービス、みんな緑町の中にあるのでみんなで手伝うという方向で考えているので心配はないと思います。

阿部様：地域密着を否定しているわけではないです。むしろ賛成です。職員の負担が心配で

中 村：スタッフがやらないならこういう提案を運営推進会議で出さないと思う。七飯町民じゃなくても地域になにかしら関わっていききたい。なにかの接点を持たなければ関われない。そうゆうきっかけにスタッフがなりたいという気持ちがあつて、無理に会社からやれという訳ではない。ここだけではなく本町の共生型や鳴川、

大沼にも男性スタッフがいるのでそこも協力を得てやりたい。介護新聞とかメディアでは GH が発展的な取り組みをしている事が出ているので発表事例を渡します。うちよりもっと発展的にやっているところもあり、そういう時代になってきている。うちで暮らしているなら出来るだけ変わらない生活をなじみの関係が続けてほしい。寝たきりになっているから移りましょうというのは出来るだけしたくない。スタッフが全く地域と関わってなければ困ったときに町内会さんに助けを求めても分からないし、そういう顔つなぎになるのではないかと考えている。そのような感じでやりたい。

與田様：社長がおっしゃったように外内業務のスタッフが当然守って、それを分かった上で職員の方法で取り組む。その中で地域との関わりを大切に。その一つの方法として今回はこのボランティアバスの運行がある。いろいろな地域密着の方法があります。高齢者の場合、1番多いのは行って選びたいという要望。注文して届くのではなく歩いて選びたいという思いに対しては良い事だと思う。過去にバスについてアンケートをとり色々取り組みましたがかかる費用に対して料金の採算が合わないというのでバスについて諦めた。そしたらタクシーなんか電話すると来てくれるように乗り合いタクシーの取り組みなんか。許可をとってやるにしても町の税金を使う。ある意味では出来ない可能性もあった。それがバスだった。それを私が主張することによって可能性があるのであれば、タクシーは乗り用なので、結局バスの1番のネックが歩ける人は15分先のバスでも良い。だけど年をとると歩くのが困難になる。最終的にどこかにみんな集まって頂いて、ワゴン車等で行くか個々の家に行って買い物に連れて行き、家まで送るという形になるを得ない。そのような事を含め取り組むというのは非常に面白いし、そういう取り組みに対してどのような支援ができるのか。直接支援じゃなくても結果を受けて町の方で地域の高齢者の方をどう確保するか、実証実験をやるか、結果を得る為に利用して行くと思っています。興味を持って取り組んでいきたいと思っています。

中 村：1つ加えるとうちは福祉車両でキャラバンですから、必ず手すりやステップがついているので、高齢者も乗りやすいというメリットがある。バスを運行する目的で今、デイサービスの管理者の若狭が大型バスの免許を取りに行っている所。多分夏には取れると思う。

若 狭：前回の運営推進会議でもお話したが、ハッピードワンII デイサービスとしては、地域との関わりをないがしろにしていたという部分あり、町内会長さん、副会長さんの名前も知らないという状態ではいけない思い、緑町の施設全体で取り組んでいって、最終的にハッピー全体でと自分の中で考えていた。何か出来ない

かと思い、まず運営推進会議に出ることからはじめた。その中で今回のボランティアバスに関しては送迎という形で、デイサービスは毎日朝、晩高齢者の送迎を行っている。道路の段差はどこにあるか、車椅子トイレはどこにあるか等情報は他スタッフよりある。そういった部分で協力できればと思ったのでぜひやらせていただきたい。

松 村：去年、ハッピーに入社して、まだ 1 年もたっていないのですが、最初に感じたのはショートステイと町内会との関わりはほとんど少ない。今回、初めて会議に出させて頂いたのですが、もっと町内会とバスを通して関わりを持ちたい。

久貴谷：アンケートをとらせて頂いてたくさんの方があれば良いという回答。今は大丈夫だけどいずれ使いたいという回答もありました。私も 4 年目になりますが、やっと、ちょっとずつ地域の方々とお話が出来るようになってきた。まだ、足りない部分があるので、住んでいる方々と接点を持ちたいという気持ちがあった。ボランティアバスをやる事によってもっとたくさんの方と知り合い、お互いになじみの関係が出来ればと思ってます。町内会さんと七飯町の協力頂きながら 3 ヶ月試行でやりたいのでお願い致します。

中 村：名前はどうするか。ボランティアバスだと分かりにくいので何か良い案はないか。

與田様：お買い物バスだと限定されちゃうのでお出かけバスとか、日本語なら良いと思う。

中 村：病院は最初からできないのでお買い物で。

與田様：お買い物だと分かりやすい。

松木（久）様：運転者とかだれか介護の方はいるんですか。

中 村：もちろんです。運転者だけでなく、さっきも言いましたが、行きはどこかに集まってもらって帰りは戸口まで行かなければならないと思う。ラルズに行く目的があれば、鳴川のスタッフ等ボランティアの介護スタッフが、ちょっと待機して荷物をキャラバンに乗せると人が乗れないので荷物はキャラバンで後からまとめて届けても良いと思います。まず施行奔放させる為の名前。それから週の何曜日が良いか。その使うルールとして杖を使っているとか不自由な人はスタッフがお手伝いする。荷物はどのくらいつめるか分からない。キャラバンは車椅子対応なので、荷物を入れる事はできますよね。

若 狭：車のタイプによっては可能です。

首藤様：買い物は来るまでも大変。

中 村：来るまでも大変と言う人は何ヶ所か、この変が良いと場所を町内会さんの方から教えて頂く。ただ気になるのが要介護者。介護支援専門員がついているので面倒。例えば、ヘルパーが入っていると、どうですか。

笠原様：ヘルパーと一緒についていかなければならない。

中 村：要支援 1 からヘルパー使えるしお買い物支援使える。認定を受けてない人はいっぱいいますよね。

田本様：70代、80代でも認定もってない人結構います。

中 村：なにかしらの支援がある人はどうなりますか。

與田様：介護員とか誰かしらの付き添いが必要となることもあるのではないかな。

松木様：資格のない人が手を掛けても良いか分からないと聞いていた。温泉では最初に、自分の事が自分で出来る人という条件を作った。

松木（久）様：そういう人が来ますけど、自分でやらなくなる。私が手を貸すまで動かないので入りたくなくても一緒に行くようにしている。

松木様：やってるうちに体力がなくなってきた、手を貸すということはあるが基本は自分でやる。介護の資格のない者が手を出して良いのか。たとえばデイサービスだけ週1回2回来ている人はどうか。

中 村：かまわない。うちのようにデイサービス、ショートステイは有資格でなければならぬが、GHは資格なくても良い。ボランティアは手を出してはいけないという法律はない。お金を貰ってなければ問題ない。

松木様：お風呂の人に200円だけ頂いてる。

與田様：無償にやる分には制約ない。無償の範囲としてガソリン代だけ払いますといった

時ガソリン代と駐車料金というのは有償という扱いをされない場合がある。それも無償になるということで、無償であれば資格があるかないか関係ない。問題なのはタクシー会社さん、バス会社さんにもお話しするのと同じように介護の必要な人が介護人が付き添う事によって、本来有償でやるべき送迎等に影響を及ぼす。その辺については、ある程度自立されている方だけの方が問題は起きにくい。

松木様：デイサービスに行くという人が行く日とぶつかれば、デイサービスを優先しますよね。

中 村：基本的には最低限自分の事は自分で出来る人っていうのを極力入れてやれば良いのではないかと思います。

松木様：良いと思います。

社長：要介護認定を受けている人は利用できないですよね。もしかしたら要介護認定を受けているのではないかという人は、どこのケアマネとか包括がついているか調べれば分かりますし、そしたらそのサービスを使えば良いし、逆にケアマネや包括に提供できるし良いかもしれませんね。名前は「お買い物バス」で良いですか。

松木（久）様：病院もありますよね。

中 村：前も問題になった。今病院も患者を取る為に、松倉さんとか色んなところで独自にバス出しているし、出していないと良く言われるのは、ななえ新病院となるかわ。なるかわ、なな新はバス出さなくても勝手に来なさいってやり方だし、函バスとかタクシーの公共機関がある。それこそ函バスとかタクシーの業務の妨げになってしまうので病院は今の所対象外。公共施設で函バスとかタクシー色々使えるし、病院からバスが通っている訳ではないのでバスに乗るところまで出た時に、歩くよりは函バス等に乗ったほうが近い。そこはどうなんですか。例えば、文化センターとか大中山コモンとか。

星村様：そうなるとう道を通ることになる。そうなってしまうと函バスと競合という形になるのでなかなか難しい。前のコミュニティバスの段階でお話した時にも地域によって分けてやっていました。その理由は七飯の人が大中山とかになるとバスの路線を通るので競合するという事は難しい。

松木様：まず買い物で良いと思う。やっているうちにお客さんから注文くるようになると

思うし、声を聴けばやりやすくなると思う。うちの前まで行けば、タクシーと一緒に。温泉の時も 15m先に来てくれるはずが、家の前にいた事もある。そういうケースだってある。買い物 1 本の方が良いと思う。

中 村：買い物 1 本でやってみて、あとは函バスさん、北斗ハイヤーさんにも主旨を説明し理解して頂き、営業妨害にならないようにお話しします。ネーミングはどうしますか。お買い物バスで良いか。

首藤様：良いと思う。分かりやすい。

中 村：それでは「お買い物バス」で。マグネットでお買い物バスとつける。そうしないとハッピーの車はあるけど、どれに乗ったら良いか分からなくなる。

松木様：行く人はハッピーだと分かるのでは。

中 村：キャラバンはデイサービス、ショートステイも使っているので間違う。高齢者なので名前をつけてあげないとインプットされない。

與田様：バスの名前がなんであろうと地域としてGHが中心になって、地域住民の足を確保する為にやっているというだけ。どうゆうネーミングであろうと、その時に民間事業でやっているのに町はどうなっているんだと問われる。だからこそ、やらなければならない。うちがコミュニティバスの前に町民に 2 回アンケートをとっていますし。緑町は郵便局で平成 14、15 年から書き換えなくても払えるようにした。それまでは書き換えないと駄目だったがそれになってから緑町の郵便局で税金を払う人がかなり増えた。コンビニエンスストアで払えるようになった時期にそのように変えたのです。コンビニは便利な所にあるけれど簡易郵便局は不便な所にある。なぜ不便な所なのに払う人が増えたかという線路をまたいで上に行く事が緑町の人には不便に感じているから。なので買い物バスをうまく地域に浸透させれば結構色んな使い道があると思う。

松木様：大変良いと思います。限界集落ではないけれど、その中にちょっとつけ加えてあげるというか。

與田様：皆の話し合いの中で事業所さんとして地域に還元したいということで、ボランティアバスを行う。全てが一致した上で成り立っているので問題ない。

松木様：社会実験という事で。良いなら良いなりに、次考えれば良いし、駄目なら駄目でも考えれば良いし。

中 村：そうですね。基本的に運営推進会議では緑町だけではなく鳴川、大沼もあります。次にバスがあがるとしたら大沼。鳴川は本町に近いのであまり支障はない。逆に坂を下りて来るのが大変だという案が出てるので、鳴川はどっちかという防災について話し合う。1ヶ所ではなく2ヶ所で出来るように頑張る。

與田様：前回アンケートした際1番ニーズが高かったのが藤城。1番低いのが大沼だった。ただ実際は大沼は高く公共交通機関というのが今も昔も変わっていない。昔からバスは1日に何本しか走ってないし、高齢者を近所の人が北斗の魚長まで乗せてってくれる事で地域のコミュニティが成り立っている。それが高齢化になりだんだん成り立たなくなっている。鳴川あたり要望低い。バスはあるしJRが走っている。個別の地域アンケート結果として残っているので参考にしても良いと思う。

中 村：あそこは防災について町内会が結構取り組んでいる。

松木様：それぞれの町内会で特徴ある。

中 村：ボランティアバスもお買い物バスって赤い字で書いてあげれば分かりやすい。

與田様：「おかいもの号」は。バスって大きいイメージがある。号でなくても良いけど。

田本様：行くお店は町内のお店をだいたい設定するんですか。

社長：まずはラルズ、魚長を設定しようと考えていた。どうですか。

田本様：構わないと思うが、公平に利用しなくても大丈夫なのかと思った。

中 村：週1、2回くらいの利用のニーズが多かった。曜日設定をどうするか。いつもチラシが入ってるの見ますけど、ラルズも魚長も同じ日に安いとか出てるけど土日ではなく平日を選んでいる。皆さん比較的に平日のいつ行きますか。

松木様（久）：ラルズは火曜日シルバーデイ。

中 村：では、ラルズは火曜日で。魚長はいつですか。

松木様（久）：月曜日だと思う。

中 村：せっかくなので魚長、ラルズの「なんとか DAY」にあわせる。やっぱり野菜はあそこ。魚はあっちとかあると思うし。月、火がニーズですね。

與田様：北斗ハイヤーさん、函バスさんに話しをする時に、今ラルズと魚長の話しかしていない。例えばホクレン行きたいとかなったときに話していないのにホクレン行くとかルール違反になると思う。なので、話をする時に週 2〜3 回という形で場所を本町、鳴川近辺と言ったほうが良い。行ける範囲もあるだろうし。

中 村：ホクレンは皆さん行きますか。

松木様（久）：たまに行きます。日曜日に肉が安い。

與田様：3 ヶ月ラルズ、魚長に限定して実施して、ホクレンも必要になればまた考えて行けばよいのでは。

中 村：そうですね。月曜日は魚長、火曜日はラルズで行きましょう。

阿部様：どんな風に知らせるんですか。

中 村：町内会緑町なので、大きく分かりやすく紙を作る。時間は何時頃が良いか。

松木様：従業員の時間の合間見て、行きやすい時間で。

中 村：試行ですので、シフトに合わせて休みとります。1 日 1 回です。何時頃買い物行かれますか。1 日いっぱいラルズならシルバーデイなんですよ。魚長も。

松木様：無職の人が行くから、時間気にしなくても良い。

中 村：名前と時間、行く場所こちらで決める。逆にこちら辺でバスがとまってほしい、回って欲しいという要望、情報欲しい。

田本様：午前、高齢者は病院へ行きますよね。買い物は午後が良いと思う。13 時 30 分とか。

松木様（久）：それから第 1、4 の木曜日は入浴の日。

中 村：午後で設定して車 2 台。場所教えて頂ければ時間などかいた紙作りますので、町内会にお渡しします。

首藤様：図面見てこことここなら行ってみようかというのものもあるだろうし。最低 3 ヶ所くらいですね。

中 村：チラシは 400 何世帯あると思うけど、世帯分コピーしますので、町内会さんで配ってもらう。

7、8、9 月とはじめたいと思っていた。七飯町のお盆は 8 月だけど、函館のお盆は 7 月。全部が七飯町のお盆に合わせているとは限らないと思ったので 8 月 13、14、15 のお盆のニーズに答えられればと思った。お盆明けのほうが良いか。

では、6 月中にチラシ作りましょう。色入れないと目立たないので、世帯分作る。ニーズがあるかないかなので、使う人がいるかないかではない。とりあえず PR をする。色々試行錯誤でダメならダメでよい。6 月中に作るので 7 月頭には町内会さんにもって行く。

松木様：配ったと同時に申し込みもするのですか。

中 村：そうです。紙に住所と名前を書いてもらってそれを回収するのをどうするか。家に紙置いてしまうと返って来ない。

與田様：会員登録みたいな形にすればよいのでは。

松木様：多くて 23 班あるが 23 班分の申込書とその案内を作って、何月何日までに班長さんをお願いしますと出してもらうのはどうか。

中 村：あとはこれを使うときにこちらから来週は行きますかと電話しても良いですしね。そうゆう紙を作れば良いんですね。名前と何丁目とか書いて。

首藤様：名前の欄を大きく書いていただければ。行く場所はだいたい決まりました。

中 村：後で教えてください。試行はいつから。

松木様：8 月くらいが調度良いのではないか。

中 村：7月に出して8月試行だと忘れてしまう。

首藤様：配った所に町内会からさらに連絡取る形で確認する。

與田様：7月であれば広報紙の折り込みに緑町だけで8月の何日にやりますと知らせれば。緑町の広報に持って行って入れてもらう。

松木様：分かりました。月末、30日か1日に広報に入れてもらう。

與田様：あくまでも7月の広報に8月にやりますよという周知をする。中に入れば1ヶ月あったとしても大丈夫でしょう。

松木様：あとは10人でも15人でも集まってスタートしたら口コミですよ。

中 村：そのような形で持って行ってよいですか。8月1日からスタートでよいですか。調度1日月曜日なので。

中 村：1回作ったものを町内会に持って行きます。

田本様：400枚もやっていただけるのですか。やっぱり回覧だけだと流れてしまう。残らない。やっぱりその後広報で流して頂ければ。

與田様：1枚ずつとってくださいという形にする。

中 村：基本的に残ったほうが良いので、逆にこちらからの連絡先を書いておけば聞きたいことがあったらそこにかけてきてもらえるようにする。世帯分作ってお持ちします。

8、9、10月とやって8月の末にでも1ヶ月やってどうだったかという検証をやっても良いと思うのでよろしいでしょうか。1ヶ月やったら9月の頭にでも途中経過をお話させていただきますのでよろしくお願い致します。これで終わらせて頂きたいと思います。今日はありがとうございました。